
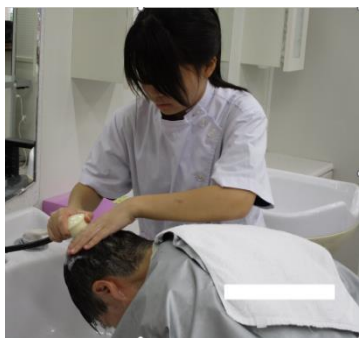


令和6年度心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	千葉県立千葉聾学校	
ア 全校幼児児童生徒数	105名	(令和6年5月1日現在)
イ 実践対象 (学年・人数など)	<p>① (1) 小中高全児童生徒86名 (2) 小中高代表児童生徒13名 (3) 中高全生徒56名 (4) 小学部5年児童6名 平山小学校5年児童80名 (5) 全幼児児童生徒105名及び、保護者、地域の方々 (6) 高等部全生徒34名 千葉南高校生徒22名 (7) 保護者、地域の方々 約20名 (8) 全幼児児童生徒職員235名 (9) 中学部2年生徒2名 川戸中学校2年生徒80名 (10) 千葉県民 約100名 (11) 中高陸上競技部生徒12名</p> <p>② 高等部理容科及び専攻科生徒6名</p>	
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	<p>①東京2025デフリンピックに向けた校内外での啓発活動及び、地域社会における聴覚障害への理解促進</p> <p>(1) 4月 デフリンピック校内認知度アンケートの実施 (2) 5月 児童生徒による「デフリンピック推進委員会」発足 (3) 7月 デフリンピック金メダリスト(卒業生)との交流 (4) 9月 平山小学校との交流会でPR&寄せ書き依頼 (5) 10月 学校祭でのデフリンピックブース展開(パネル展示や動画上映、寄せ書きコーナーの設置) (6) 10月 千葉南高校と交流会でPR&寄せ書き依頼 ※資料1 (7) 11月 1000か所ミニ集会にてデフリンピックの啓発 (8) 11月 応援旗(寄せ書き)の作成開始(校内) (9) 12月 川戸中学校との交流会でPR&寄せ書き依頼 (10) 1月 千葉聴覚障害者センター主催のデフリンピックイベントにて、本校の取り組みを紹介(予定) (11) 2月 デフアスリートと本校陸上競技部の交流(予定)</p> <p>②理容の技術を生かした社会貢献活動「社会福祉法人『アガペの里』との交流」</p> <p>7、1月 アガペの里にて交流 10月 千葉聾学校にて交流 ※資料2</p>	
		
	資料1 千葉南高校との交流会	資料2 アガペの里との交流会

<p>エ 実践の普及啓発 (地域等との交流や 広報方法など)</p>	<p>①・校内掲示板に、デフリンピックコーナーを設置 ・学校だよりにて、デフリンピックに向けた取り組みの紹介 ・「デフリンピックニュース」発行(家庭配布 学校HP掲載 近隣自治会回覧板での宣伝) ・1000か所ミニ集会にて、デフリンピック啓発映画及び金メダリスト(卒業生)のビデオ講演 ・学校祭にてデフリンピックブース展開(パネル展示や動画の上映、寄せ書きコーナーの設置) ・各部交流先の学校にて、デフリンピックのPRと、応援旗への寄せ書き依頼。(平山小 川戸中 千葉南校 各1枚) ・高等部作業製品販売会にて、地域の方々に向けて、デフリンピックのPRと、応援旗への寄せ書き依頼。</p> <p>②・県民だより4月号「キラリ輝くちばの星」掲載。 ・学校だより及び学校HPにて、交流の様子を紹介。</p>
<p>オ 実践成果 (児童生徒の変化など)</p>	<p>①・推進委員会を立ち上げたことで、子ども主体の取り組みとなり子どもたちがよりデフリンピックを意識するようになった。 ・メダリストの先輩の存在が中高生徒にとって励みとなり、活発に質問をする様子が見られた。また本物の金メダルに触れることで、デフリンピックを現実のものとして身近に感じられた。 ・近隣普通学校との交流会でのデフリンピックの説明や寄せ書きの協力依頼に向けて、本校の子どもたちが調べ学習等に取り組み、デフリンピックに対する知識を深めることができた。実際の交流会では、小中高生が指文字に触れたり、日本で使用する手話と選手が使用する国際手話との違いを、手話体験を通して学ぶなど聴覚障害理解の促進につなげることができた。</p> <p>②・「アガペの里」の利用者の方々は、主に知的障害を有しており、一般の理髪店を利用することが難しい現状がある。交流を通して散髪のお手伝いをし、利用者の方々から心からの感謝を受けたことで、生徒たちは、自分の目指している理容師という仕事の存在意義を実感し、役に立ちたい思いが強くなっている。また、県民だよりの掲載により、県民の皆さんから温かい言葉をたくさんいただき、生徒たちの励みになっている。</p>
<p>カ 次年度の予定 (課題や改善策など)</p>	<p>①・本校で日本代表選手の壮行会を開催するために、各競技団体と連絡を取りながら検討を重ねる。(期日や規模、流れなど) ・学校として現地に応援に行くことができる可能性を模索する。 ・引き続き各部の交流や、デフリンピックニュース、学校HP等を通じて、本校の取り組みを積極的に外部へ発信する。</p> <p>②・次年度以降も先方の要望等を聞き取り、より多くの方の散髪のお手伝いをすることで、感謝される喜びを感じるなど、有意義な交流となるように検討を重ねる。</p>
<p>キ 添付資料 (広報資料・Web記事など)</p>	<p>① (ア) 校内掲示板(随時更新) (イ) 1000か所ミニ集会ポスター (ウ) 「デフリンピックニュース」 (エ) 代表選手に贈る応援旗 (オ) 平山小との交流(指文字クイズの様子)</p> <p>② (カ) 学校だより 第5号 (キ) 県民だより 4月号</p>